

# 目 次

## 1 会議概要

(1) 会議の名称	1
(2) 開催期間	1
(3) テーマ	1
(4) 会場	1
(5) 後援	1
(6) 使用言語	1
(7) プログラム	2
(8) 参加都市代表	5
(9) 参加都市位置図	8

## 2 会議内容

(1) 開 会 式	9
(2) 第 1 分科会	21
(3) 第 2 分科会	46
(4) 第 3 分科会	66
(5) 全 体 会 議	90
(6) 共 同 宣 言 採 択	107
(7) 閉 会 式	109

## 3 アジア太平洋子ども会議との合同会議

112

## 4 行政視察

114

## 5 歓迎行事

(1) 福岡市長訪問	115
------------	-----

(2) 歓迎レセプション	115
(3) 送別レセプション	117
(4) 同業者プログラム	119

## 6 関連行事

(1) 第20回水道週間中央行事in福岡	120
(2) アジア太平洋都市サミット記念シンポジウム	120
(3) ハビタット・アジア太平洋地域会議	120
(4) 都市サミット開催記念・アジア太平洋映画特集	120
(5) 情報プラザ・都市サミット紹介展	120
(6) 第3回アジア太平洋都市写真展	120

7 来賓	121
------	-----

8 参加者名簿	122
---------	-----

9 福岡宣言	127
--------	-----

# 1 会議概要

## (1) 会議の名称

第3回アジア太平洋都市サミット  
The 3rd Asian-Pacific City Summit

## (2) 開催期間

1998年7月11日(土)～13日(月)

## (3) テーマ

第1分科会	「次世代教育の取り組み」
第2分科会	「保健医療体制の確立」
第3分科会	「都市と上下水道」
全体会議	「都市連携の将来展望」

## (4) 会場

ホテル日航福岡  
福岡市博多区博多駅前二丁目18番25号

## (5) 後援

国際連合、外務省、自治省、国土庁、自治体国際化協会、国際交流基金

## (6) 使用言語

4か国語(中国語、英語、日本語、韓国語)

(7) プログラム

7月11日(土)

14:00~17:00	<p>開 会 式</p> <p>—第1部— 参加都市紹介……………参加都市代表者登壇 主催者挨拶……………福岡市長 桑原 敬一 来賓祝辞……………外務省大臣官房審議官 西田 恒夫 来賓紹介 福岡市民代表歓迎挨拶……………福岡市議会議長 小石原 淳一 参加都市代表挨拶……………広州市長 林 樹森</p> <p>—第2部— 基調講演 「アジア太平洋地域の都市の持続的繁栄」 前国連事務次長(人道問題担当) 明石 康</p> <p>—第3部— 能「石橋」 観世流 坂口 信男 観世流 坂口 貴信</p>
-------------	---

17:00~17:15	記念写真撮影
-------------	--------

18:00~19:30	歓迎レセプション
-------------	----------

7月12日(日)

9:00~12:00	<p><b>第1分科会「次世代教育の取り組み」</b></p> <p>各都市発表……佐賀, バンコク, 福岡, 広州, 熊本, 宮崎, 長崎, シンガポール, ウルムチ</p> <p>座 長……佐賀市長 西村 正俊</p>
9:00~12:00	<p><b>第2分科会「保健医療体制の確立」</b></p> <p>各都市発表……香港, 大連, 福岡, イポー, 北九州, マニラ, 大分</p> <p>座 長……香港臨時市政局主席 レオン・テン・ポン・ロナルド</p>
9:00~12:00	<p><b>第3分科会「都市と上下水道」</b></p> <p>各都市発表……釜山, オークランド, ブリスベン, 福岡, ホーチミン, ホノルル, 鹿児島, クアラルンプール, 上海</p> <p>座 長……釜山広域市長 安 相英</p>
12:00~13:30	昼 食
13:30~15:55	<p><b>全体会議「都市連携の将来展望」</b></p> <p>第2回実務者会議報告……福岡市総務企画局長 井上 剛紀</p> <p>分科会座長報告……第1分科会 佐賀市長 西村 正俊 第2分科会 香港臨時市政局主席 レオン・テン・ポン・ロナルド 第3分科会 釜山広域市長 安 相英</p> <p>国連報告 「都市連携の将来展望」 国連人間居住センター(ハビタット)福岡事務所長 イグナシオ・アルミヤス</p> <p>座 長……福岡市長 桑原 敬一</p>
15:55~16:00	<p><b>共同宣言採択</b></p> <p>座 長……福岡市長 桑原 敬一</p>
16:00~16:15	<p><b>閉会式</b></p> <p>閉会挨拶……福岡市長 桑原 敬一</p> <p>参加都市代表挨拶……イポー市長 ダト・ハジ・タラー・ビン・トー・ハジ・フセイン</p> <p>次期開催都市挨拶……釜山広域市長 安 相英</p>
16:35~17:00	<b>共同記者会見</b>
19:00~20:30	<b>送別レセプション</b>

7月13日(月)

9:00~11:00	こども会議と合同会議
12:10~13:00	昼食会
15:10~22:00	行政視察

# 2 会議内容

## 開 会 式

### — 第 1 部 —

【司会】 ただ今より、第3回アジア太平洋都市サミット開会式を開催いたします。

#### 参加都市紹介

【司会】 それでは、第3回アジア太平洋都市サミットに参加の12か国23都市と代表者の皆様を紹介させていただきます。代表者の方にはステージに登壇していただき、お国の言葉で「福岡市の皆さん、こんにちは」とメッセージを送っていただきたいと思います。

#### 参加都市紹介・代表者登壇

#### 主催者挨拶

【司会】 それでは、ここで主催者を代表して、福岡市の桑原市長よりご挨拶申し上げます。

#### 【福岡市長 桑原 敬一】

皆様、こんにちは。開催市の市長として一言ご挨拶を申し上げます。

第3回アジア太平洋都市サミットに、関係各都市の首長の皆様、各国の大使閣下をお迎えして開催できますことを心から嬉しく思います。

ここ福岡の地に、海外11か国・地域から15都市、九州各地から7都市の代表者の方々のご参加を賜り、また駐日関係国大使閣下の皆様をはじめ、国際連合、外務省、自治体国際化協会、国際交流基金からのご来賓の皆様のご臨席を、また、たくさんの市民のご参加を賜りましたことにつきまして、大変嬉しくこの上なく栄誉に思います。遠方からお越しいただきました参加都市代表団の皆様とご来賓の皆様を心から歓迎申し上げますとともに、本日ここにご列席の皆様には厚く御礼申し上げます。

このアジア太平洋都市サミットは、今回で3回目を迎えます。1994年に第1回目を福岡市で開催し、2年後の1996年に中国の広州市で第2回目が開催され、そして本日再び福岡市で第3回目が開催されることになりました。今回は、新たに太平洋地域のオーストラリア・ブリスベン市と、アメリカ合衆国・ホノルル市の2都市のご参加を得て、過去最多の23都市となっています。都市サミットは、経済発展に伴って発生する共通の都市問題の解決を図るために、都市行政の責任者である市長が一堂に会し、ひざを交えて率直な意見交換を行う首脳会議であります。過去2回の開催を通じて、相互理解がなされるとともに、参加都市間で新たな友好関係が誕生する等、多くの交流が展開されて参りま

した。また、都市サミットの翌年には、サミット開催精神を補完するために実務担当者レベルによる実務者会議も開催され、2回の実績を踏まえ、都市問題解決に向け一步一步着実に歩み出しているところでもあります。3回目を迎えるに当たりましては、従来までの相互理解・相互交流から更に一步踏み込んで、相互協力・都市間協力という新たな分野を開発していくことが、経済危機に直面しているアジア地域と更には太平洋地域の都市の持続的繁栄にとって重要なポイントではないかと考え、その意味を含めて、分科会議では、教育・保健医療・上下水道の具体的な都市問題について話し合い、引き続き全体会議で都市連携のあり方等について話し合うことにいたしております。

行政の最高責任者として日々問題解決に当たっておられます方々の忌憚のない意見や多岐に及ぶ情報は、この都市サミットに参加しておられる都市のみならず世界の多くの都市にとって新たな21世紀を創造する上で示唆に富み、また非常に参考になることだろうと確信しております。私はアジア太平洋都市サミットが、アジア太平洋地域の発展、ひいては世界の平和と安定、繁栄に貢献できますことを願っております。

最後になりましたが、このたびの会議開催にご支援ご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げますとともに、ご列席の皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ご静聴どうもありがとうございました。

#### ----- 来賓祝辞 -----

**【司会】** 続きまして、本日ご臨席いただいておりますご来賓の皆様の中からご祝辞を頂戴したいと存じます。外務省大臣官房審議官の西田恒夫様よりご祝辞を頂戴します。西田様よろしく願いいたします。

#### **【外務省大臣官房審議官 西田 恒夫】**

ただいまご紹介にあずかりました外務省の西田でございます。本日は、お預かりして参りました小淵外務大臣の祝辞を代読させていただきます。

本日ここに、アジア太平洋地域の諸都市の市長をはじめとする関係各位のご列席のもと、第3回アジア太平洋都市サミットが開催されますことを心からお喜び申し上げます。

冷戦後の国際社会におきましては、相互依存関係の一層の深まりやグローバル化の急速な進展が大きな流れとなっております。アジア太平洋地域におきましても、政治・安全保障の分野では、ASEAN拡大外相会議及びASEAN地域フォーラム、また経済分野では、アジア太平洋経済協力会議が地域の枠組みとして着実に進展してきており、域内諸国の相互依存関係及び協力関係がますます深まってきております。他方、グローバル化や相互依存関係の進展は、一国で生じた問題が国境を越えて全世界に容易かつ迅速に波及する状況をもたらしてきております。アジア太平洋地域もその例外ではございません。例えば昨年後半より、多くのアジアの国々が通貨危機に端を発した厳しい経済困難に直面をしておりますが、この問題もまさにこのような地域的規模の経済の相互依存関係の進展を背景として発生してきたものでございます。我が国はアジア経済の回復のため、関係の各国、国際機関と連携し、これまでに世界最大規模の総額約420億ドルの支援を実施して参りました。アジア諸国は依然として力強いファンダメンタルズを有しており、私は、アジア、そしてアジア太平洋地



域が世界の成長センターとして再び大きく飛躍することを確信している次第です。同地域はまた、人口、食糧、エネルギー、そして環境等の一連の重要な問題を抱えており、例えば先ほど言及いたしましたAPECの場におきましても、アジア太平洋地域における人口増加と急激な経済成長が、食糧及びエネルギー、環境に与える影響について分析をするなど、長期的課題としての取り組みが進められてきているところです。これら人類共通の課題をいかにして成功裏に解決することができるのかということに、21世紀の世界の浮沈がかかっていると申し上げても過言ではないと思います。

このような国レベルの取り組みもさることながら、本日、アジア太平洋地域からご列席の皆様が都市のレベルにおかれましても、経済活動の進展及び人口の集中等によってもたらされる様々な都市問題の解決に向けて、不断の努力を続けておられるということを存じております。これからのさらに一層魅力ある都市づくりに対しましては、環境保護に留意しつつ、持続可能な都市の成長を目指すことが必要であり、そのためには都市間の協力、情報の共有等を通じたネットワークの構築が不可欠です。かかる時代の要請を具体的に実践していこうとする試みのこの第3回アジア太平洋都市サミットが、94年の第1回に続きまして、4年ぶりに日本の対外交渉拠点となってこられましたこと福岡で開催され、アジア太平洋地域の都市のリーダーの方々が一丸となって問題解決のため、真剣で、かつ活発な議論を進められると同時に、これまでに培ってこられた友情をさらに深められるということは、まことに有意義、また時宜を得たものと考えております。特に、都市問題解決に向けた都市間の連携、友好親善と相互協力のためのネットワークの構築、これはアジア太平洋地域の長期的な平和と繁栄に、貴重で、同時に極めてユニークな貢献を成すものと確信します。

最後に、第3回アジア太平洋都市サミットのご成功、主催者の福岡市長をはじめとされますご列席の皆様方のご健康、並びに参加各都市の一層のご発展を心から祈念いたしまして、ご挨拶の言葉とさせていただきます。

平成10年7月11日

外務大臣 小 淵 恵 三

----- 来賓紹介 -----

【司会】 ありがとうございます。それではここで、ご来賓の皆様を紹介させていただきます。ご来賓の方はお名前を呼ばれましたらその場でお立ちいただきますようお願いいたします。

♪ 来賓起立 ♪

【司会】 以上、ご来賓の皆様をご紹介いたしました。

----- 福岡市民代表挨拶 -----

【司会】 続きまして、福岡市民を代表いたしまして福岡市議会議長の小石原淳一様より歓迎のご挨拶を頂戴したいと存じます。小石原様よろしく申し上げます。

## 【福岡市議会議長 小石原 淳一】

皆様、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました福岡市議会議長の小石原でございます。第3回アジア太平洋都市サミットの開催にあたり、福岡市民を代表いたしましてご挨拶申し上げたいと思います。

アジア太平洋都市サミットが1994年に引き続き再び福岡市で開催され、今日こうして皆様に再会できますことを大変嬉しく、また光栄に存じます。ようこそ福岡へおいでいただきました。ご承知のとおり、アジア太平洋地域は世界の中でも急速な経済成長を遂げ、世界から大変注目を浴びております。しかしながら、その一方、都市においては周辺の農村部から職を求めて多くの人々が集まり、その結果、交通・住宅・廃棄物をはじめ、この会議のテーマであります子どもたちの教育、保健医療、上下水道等、多くの都市問題が生じてきています。これらの問題を解決するにあたっては、1国1都市だけで臨むことはなかなか難しいのが現状ですが、この都市サミットのように多くの都市が連携し知恵を出し合うとともに、都市問題の解決に向けた相互理解と有効なネットワークづくり及びその強化は大変素晴らしいことであり時宜を得たものであると思います。本日ご参加の代表団の方々には、各都市の行政の責任者として市民の生活を守るために日夜たゆまぬ努力をされております。このご努力に対しまして心から敬意を表しますと共に、今回の都市サミットで多くの成果が収められ市政に反映されますように、ご期待申し上げます次第です。

ここ福岡は、古くから日本におけるアジアとの交流の窓口として発展してきたまちであり、かつては日本の顔とも言える迎賓館の鴻臚館があったところでもあります。また、大変食べ物がおいしいまちとしても有名です。私も福岡市民は、皆様を心から歓待申し上げたいと思います。どうぞ時間の許す限り、人情味あふれる国際交流都市・福岡、食べ物がおいしいまち・福岡をお楽しみいただきたいと願っております。

最後に、本日ここにお集まりの皆様のご健康と今後ますますのご活躍を心から祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## ----- 参加都市代表挨拶 -----

【司会】 ありがとうございました。続きまして、参加都市を代表して広州市長の林樹森様よりご挨拶を頂戴したいと存じます。林樹森市長よろしく願いいたします。

## 【広州市長 林 樹森】

4年前、桑原福岡市長のご発案により私たちアジア太平洋地域21都市の代表が福岡に参集し、第1回アジア太平洋都市サミットを開催いたしました。本日、私たちは再び福岡の地に集い、第3回アジア太平洋都市サミットを開催します。ここに23の参加都市を代表し、お招きいただいた桑原福岡市長に心よりお礼を申し上げます。

今日、世界各国の関係は日増しに密接になり、国際化の潮流は高まりつつあります。国家間の交流ばかりか、地域や都市間の交流もますます重要性を増してきました。アジア太平洋地区は、現在、世界で最も発展の速い、多様性に富んだ地域です。アジア太平洋地域はかつて人類の文明に大きく寄与しましたが、現在でも国際社会の注目を集める地域であり、世界の政治や経済における地位も向上の

一途をたどっています。

このような状況を背景に開催された過去2回の会議では、それぞれ「都市の発展と居住環境との調和」そして「21世紀の都市発展」をテーマに、各都市の首脳たちが真剣に実り多い討議を行い、交流と連携を引続き強化して21世紀におけるアジア太平洋地域の都市の繁栄と発展を共に推進していくことに合意しました。本会議では「都市連携の将来展望」を新たなテーマとし、過去の会議と同様に新たな共通の認識を得られることと確信しています。

21世紀を目前に控えたアジア太平洋地域は、世界人口の4割を擁し、国民総生産総計の半分を占めています。現在のアジア太平洋地域の経済は、比較的長期の高度成長の後、厳しい事態に見舞われ予想もしなかった困難に直面しています。しかし、山とて流れる河を遮ることはできません。足下を固め未来を見据えて共に手を取り、各々の発展戦略を実現していきさえすれば、アジア太平洋経済の持続的成長と社会の全般的進歩は、必ずや回復することができるでしょう。アジア太平洋地域の都市間協力を発展させるためには相互尊重と平等互惠が大前提です。アジア太平洋地域の各国に多様性が存在するのと同様に、各都市にも様々な共通点があり、同時に、社会制度、宗教信仰、発展水準や発展モデル等の面で、少なからず違いがあります。この多様性は、相互交流、相互補完、共同前進のための条件であり、優位性でありこそすれ相互理解や相互協力の妨げとなるべきではありません。アジア太平洋地域各都市の多様性を充分尊重し、市民の自主的選択を尊重すること、そして互いに尊重し合い小異を残して大同につくという精神に基づき、都市間交流と連携の促進に努力することが、今後もアジア太平洋都市サミットの一大テーマとなることでしょう。アジア太平洋地域の都市の多くは発展中の国家に属しています。アジア太平洋経済の飛躍的發展に伴い、都市建設も加速度的に進みつつあります。今回の分科会議テーマのうち「都市と上下水道」は具体的討論による協力の場を皆様に提供することでしょう。技術交流と協力は、アジア太平洋地域の都市の経済協力のもう一つの重要な領域です。21世紀に向かう過程で、アジア太平洋地域の都市は、実情を見据え、人口、経済、社会、環境、そして資源を調和させていく道を求めていかなければなりません。そして目の必要ばかりにとらわれず、子孫のために生存と発展の空間を確保することが求められています。「保健医療体制の確立」という議論が、皆様に新たな啓発と収穫をもたらしてくれることを心より期待しています。経済や技術協力を強化するには、人的資源の開発も欠かせません。人材は経済や社会の発展根本であり、都市の持続的繁栄のためには、続々と健康な後継者が育ってくる必要があります。次世代教育への取り組みは、アジア太平洋地域の都市が今後も繁栄していく過程においておざなりにできない課題です。私は、明日バンコク市など8都市の代表と「次世代教育への取り組み」について意見を交換できることを大変楽しみにしています。世界各都市の近代化の経験が、歴史は中断することがないと教えてくれています。都市の近代化を促進する過程で、民族の優秀な文化を発揚し近代化が求める品格ある文化をつくり上げていくことは都市発展の趨勢です。アジア太平洋地域の都市は、悠久の歴史の流れの中、民族性豊かな輝かしい文化を形成し人類の文明に大きな貢献をしてきました。歴史絵巻を繙けば、アジア太平洋地域各民族の文化の源流は深く関わり合っており、古来より密接な交流と協力を行っていました。21世紀を目前に控えた今日、それぞれの文化芸術の交流と合作はこれまでも増して重要となっています。アジア太平洋地域の文化交流が一層の開放性と包括性を備え着実に進歩せんとする精神を発揮して、次世紀のアジア太平洋地域の文化に再び輝きをもたらすことを念願しております。

アジア太平洋都市サミットはその第1回会議を福岡で、第2回会議を広州で開催し、共にアジア太

平洋地域の都市交流と連携強化の願いを表明しました。各都市首脳のご努力により、参加各都市は理解を深め、友情を育て、多くの共通認識を得てきました。これまでにうち立てた友好協力関係の持続的発展のため、アジア太平洋地域の都市の首脳は、今後も接触を強め対話を進めることが必要です。そのためにも、私はここにアジア太平洋都市サミットの開催を引き続き支持し、かつ強力にこれを推進して、共に21世紀のアジア太平洋地域の都市の発展と繁栄を促進していくことを提案いたします。

最後に、第3回アジア太平洋都市サミットが成功裏に進みますことを心よりお祈りします。また、この場をお借りして、全ての参加都市を代表し、桑原市長をはじめとする開催市の入念な準備と皆様の際立ったお仕事振りに感謝の意を表します。

**【司会】** ありがとうございます。広州市長の林樹森様よりご挨拶を頂戴しました。それでは、ここで市長の皆様がご降壇されます。皆様、盛大な拍手をお願いいたします。

(拍手)

## — 第 2 部 —

### 基 調 講 演

**【司会】** ただ今から、前国連事務次長の明石康様をお招きして『アジア太平洋地域の都市の持続的繁栄』と題しまして基調講演を行います。明石様は、日本が国連に加盟した翌年の1957年に国連事務局にスカウトされました。日本人としての国連職員第1号ということになります。1992年1月にカンボジア暫定統治機構（UNTAC）の特別代表に任命され、新生カンボジアの誕生を導かれました。その後、旧ユーゴスラビア問題担当国連事務総長特別代表、国連事務総長特別顧問、人道問題担当事務次長を歴任され、1997年12月に退官。1998年4月に広島平和研究所長に就任され、更に人口問題協議会会長に就任されております。

それでは、明石康様よろしくお願いたします。

#### 『アジア太平洋地域の都市の持続的繁栄』

#### **【前国連事務次長(人道問題担当) 明石 康】**

ただ今ご紹介にあずかりました明石でございます。

このアジア太平洋都市サミットを提唱され、1994年の第1回以来それを常に支援してこられた福岡市と桑原市長の素晴らしいご決断と英知に大きな敬意を払いたいと存じます。また、第2回を96年に開催された広州市の林樹森市長のご努力にも注目し、称賛を捧げたいと存じます。

この会議は、今や北はウルムチ市、南はオークランド市、東はホノルル市、西はイポー市という大変広範な地域を包含しています。また、その包含する国・都市は極めて多様で多彩です。確かに東アジア諸国は、現在大きな経済的また金融面での困難に直面していますが、私は当面の困難は早晩解決すると思っていますし、その意味でこの地域の中長期的な展望は極めて明るいものがあると確信している次第です。アジア太平洋地域とは一体何かということを考えてみた時、はっきりした定義はございませんが、しかし、どこかで線引きをしないと余りにも漠然とし、地理的にも広範になってしまう危険があります。しかしながら、無理やりに人工的にアジア太平洋地域の範囲を限定するというのも、或いは考えものだと思います。とにかく、この地域こそ今や世界で最も注目されている地域でありますし、ここには世界人口の半分以上が既に住んでおります。

私が長年勤めておりました国際連合の観点から見てみますと、アジア地域というのは、地域としての政治的な結集度において世界の他の地域に比べて、残念ながらやや劣っております。西半球においては、米州機構（Organization of American States）があり、50年余り協力を続けています。また、アフリカにおきましては、アフリカ統一機構（Organization of African Unity）があり、非常に多いアフリカ内での紛争の解決に尽力しているわけです。ヨーロッパにいきますと、また、欧州安保協力機構（Organization for Security and Cooperation in Europe）がきちんとできて機能しています。また、旧ソ連の生み出した新しい国々の協力機構としては、CISという機構がございます。アジアを見てみますと、確かに東南アジアにはASEANが立派に機能しており、またアジア太平洋地域全体の経済協力のためのAPECもございます。それから、ASEANが生み出したアジア地域フォー

ラム（ARF）というのも萌芽的ではありますが、アジア全体の信頼醸成の方向で活躍しています。

しかし残念ながら、アジア全体を包含する政治機構というものは、きちんとした形でまだできておりません。これは国連の見地から言いますと、少し困るわけであります。といたしますのは、今や90年代になり国連の仕事も飛躍的に増えたのですが、国連は財政的その他の事情から言いまして、何でも自分でやるわけにはいきませんので、能力を超えることも多々あるわけです。そういう意味で、国連は国連憲章第8章に基づいた地域機構との協力をこれから強めようとしているのです。

現にハイチその他の問題の解決のためにはOASと協力し、リベリアやシエラレオネやソマリアの問題を解決するために、まさに今申し上げたOAUとの協力を実行したわけです。そういう意味で、これからは普遍的な世界的機構の国連と地域的な機構との二人三脚、こういうものが要請されているわけですが、国連からアジアを見ますと、そういう意味では少し寂しいという感じがします。その観点からすると、まさにこの福岡市のアジア太平洋都市サミットは、新しいアジアにおける相互理解と協力の一つの礎石になり得るのではないかという期待を私は持っています。

世界においては、人、物、情報、アイデア、それから最近ではお金の交流がますます盛んになり激しくなっています。言うまでもなく、国境の垣根は日増しに低くなっており、その中でも短期的、投機的なお金の動きというものには必ずしも歓迎すべき点だけではなく、破壊的な要素もあるようですから、国際的な監視の目も必要になってきていると思います。何と申しましても、国家や中央政府の役割は外交面その他においては不可欠の重要なものですが、こういう非常に広範な経済や文化を含む国際交流の中では、相対的に中央政府の役割は減少してきており、むしろ地方自治体の役割と責任が明らかに拡大してきていると言えらると思います。国連を見ましても、国連の主人公というのは185の加盟国の政府です。国際条約を結ぶ主体も各国の政府です。しかし、最近は政府以外のプレーヤーも非常に重要になってきていると言えます。つまりNGOとか地方自治体、職能団体、多国籍企業、それから各国の言論機関、こういったものの与える国際的なインパクトは大きくなっていく一方です。最近の例を少し挙げますと、昨年カナダのオタワで採択されました対人地雷禁止国際条約、これを締結する上で、各国の人道問題を担当するNGOの活躍はまさに目ざましいものがありました。ご存じのように昨年のノーベル平和賞はこういう対人地雷廃止の運動を行ったNGOに与えられることになりました。

日本で昨年12月に京都で行われました地球温暖化防止会議の内外においても、日本の国際的なNGOの活躍に非常に華々しいものがあったというのは、皆様の記憶に新しいことではないかと思えます。

それから、国連が抱える問題の中でアフリカの問題が今一番大きなものですが、昨年、国連の安保理事会は、中部アフリカの問題について世界のNGOの代表の意見を聴取したいと、当時、人道問題を担当させられていた私が聴取先を選ぶことになりましたが、その選ばれた3つのNGOは、アメリカの「Care International」イギリスの「Oxfam」、それからフランスの「国境なき医師団」という3つのNGOの代表でした。この3人の代表は、実に各国政府の代表や外交官を驚かせるような素晴らしい知識と創見をアフリカ問題に対して紹介し、みんなをうならせたわけです。

さて、現在日本は子どもが少なくなる少子化問題、それから人口が高齢化していく高齢化問題に非常に憂慮しています。65歳以上の人口は、1950年には総人口の5%弱にすぎませんでしたが、これが1995年の3年前には15%となり、そして2050年には32.3%位までいくだらうと予想されています。つ

まり1950年から2050年までの100年間に65歳の人の人口比率が6倍に増えるわけです。それから、1950年の世界の総人口は25億人でしたが、これが50億を超えたのは1987年です。2050年には100億人を超えるだろうと予想されています。世界人口の増加率は国連人口基金その他の努力もあり、やや低下の兆しを見せております。が、これはタイタニック号のようなものでスピードを減少するにも相当の時間がかかります。それで、2100年には世界の総人口は110億になるだろうと予想されています。確かに世界人口の出生率は低下を始めているわけですが、我々が希望するような世界の人口、食糧、環境、エネルギー等の相互のバランスが達成されるのには、まだ多少時間がかかるのではないかと思います。

また、世界で農業のために耕すことのできる可耕地というのは、地球全体の11%位にすぎません。肥料生産、バイオテクノロジーの導入、それらにより食糧の増産ということはある程度期待されますが、これは可耕地の絶対的な制約等もあり、現在の1.5%位まで食糧が増産できれば、それが限度であろうと見られています。こういうことを考えますと、我々は今までのようなやみくもな量的成長を目指すことはできません。この辺で方向転換し、量から質への比重の移動と、もっと環境を尊重し、ある意味では、生活の外側というよりも精神的な内側を豊かにすることに重点を移行していかなくてはいけないのではないかと考えます。

都市問題には、人口問題、環境問題、居住問題、食糧、エネルギー、水、交通、教育等の一連の問題が集約的に表れています。これらの問題は相互に関係し、リンクしています。いずれの解決も他の問題の解決と一緒に総合的に行わなければならない性格を持っていると思います。また、多くの場合、こうした問題の解決は、各国ないしは各都市がバラバラに自分だけで対策を練ろうとしても不可能な場合が多いと思います。その意味で、国際協力の枠組みが必要になってくるわけです。環境問題をとってみますと、インドネシアにおいて昨年起こった森林火災、これが他のASEAN諸国全部に大きな影響を与えましたし、大陸における酸性雨が我が国にまで大きな悪影響を与えているということを見ましても、まさに国際協力の必要ということを裏書きしているのだと思います。

アメリカと旧ソ連、この2つの超大国が中心になって展開した冷たい戦争、つまり自由主義市場経済を中心とする陣営と共産主義を標榜する陣営との不幸な対立と抗争の時代は、幸い1990年を前後として終わりを告げました。イデオロギーについての勝敗はあったように見えます。しかし、市場経済による効率性と利益の追求、これだけでいいのかということになりますと、やはりその反面では、社会政策つまり失業者の問題、弱者の問題、恵まれない人々への配慮をどうするかということがあり、最終的な答えはまだ出ていないのではないかと考えられます。また、冷戦が終わった直後、90年代の初めには世界は本当に平和で安定した、繁栄したバラ色の世界になるであろうという期待に満ち満ちていました。しかしながら、実態は残念ながらそういう期待を必ずしも満たすことができませんでした。国と国との間の国際的戦争とか対立は確かに減少しましたが、この90年代においては、民族や人種や部族や宗教、こういったものに絡む内戦が世界の各地で勃発しました。アジアはアフリカに比べますと、このような内戦の数は必ずしも多くありませんが、アジアの西の方のアフガニスタン、その少し北の方にありますタジキスタンでは、まだ色々な部族ないしは宗教のグループ間で武力抗争が行われており、民衆が苦しんでいます。私も国連での自分の職務として、こういう内戦に苦しむ民衆を人道的な見地からいかに助けるかという仕事に従事して参りましたが、この内戦の残酷さというものは、国と国との戦争に比べても格別なものがあり、犠牲になる人々は多くの場合、女性であり子どもである場合が多いわけですが、実に目を覆いたくなるような情景が数多くありました。一緒に住ん

でおる人たちが国の内部で闘争を開始しますと、これは近親憎悪というものの一種かもしれませんが、非常にむごたらしい闘争の仕方をする。その意味でも、我々は国と国との間の抗争のみならず、国の中での調和や安定が破られないようにするために、どうすれば良いのかということ懸念に考えてみなくてはいけないのではないかと思います。

先程紹介があったとおり、私はカンボジアにおける国連PKOと旧ユーゴスラビアにおける国連PKOという、国連史の中でも最も大きなマンモスPKOの総指揮をやらされることになったわけでありませぬ。このカンボジアと旧ユーゴスラビア、特にボスニアに行きまして感じたのは、都市と農村部との緊張関係はちょっと見逃され易いわけですが、非常に激しい冷戦の一つの要因として、これを挙げないわけにはいかないと考えます。カンボジアの場合は、いわゆるクメール・ルージュ、ポル・ポト派は国連の和平プロセスに抵抗して、我々は手を焼いたわけですが、このポル・ポト派の温床になったものは、やはり都市に比べて農村部が非常に貧しかった、農村部の人々は自分たちは見捨てられているという感じを持ったということが、その一つの背景として挙げられると思います。それから、ボスニアにおいては、カソリックとセルビア聖教のグループとモスLEMという3つの宗教グループの三つ巴の闘争であるというふうに言われますが、ボスニアの首都サラエボとか、その他の大都市においては、実は宗教と宗教の間の対立というものは余りありませんでした。サラエボにおいては、実に結婚の60%が異なる宗教を信じる人たちの間でのことでした。また、サラエボの町で毎週1回、今の市長と元市長の人たちの懇談会があり、私はそこに一度招かれて行きましたが、12人位の元市長さん達が集まっている中、そのうちの3~4人はセルビア系、3~4人はモスLEM系、2~3人はカソリックのクロアチア系という多彩なグループで、その人達が和気藹々と話しているのを見て非常に印象を受けました。ところが、ボスニアにおいては、やはり農村部、地方の方には、自分の信仰する宗教へのこだわりがもっと大きく、その意味では、宗教間の対立と言われているボスニア紛争は、むしろ都市対農村部という対立の面もあったのではないかと私は考えています。

こういうことが示すものは、やはり都市は自らの抱える問題を解決しなければならないわけですが、と同時に、その都市を囲む周辺部、農村部の問題も視野に入れた広域行政、こういうものを考えつつやらない場合は、真の意味での都市の安定や繁栄にはならないのではないかと思います。地方から都市への人口の急激な流入というのも、アジアの開発途上国においては非常に大きな問題であるのは、皆様ご存じのとおりです。水とかエネルギーの問題も、明らかに周辺部の観点を考慮に入れない場合、都市だけで解決できるものではないわけです。

今年1998年は、国連で世界人権宣言が採択されて丁度50年になります。そこで、50周年の記念行事が世界中で色々予定されています。この50年間に国際社会は人権に関して大きな進歩を遂げました。と同時に、人権や民主主義というものが世界的、普遍的なものであるのか、それとも各地域、文化、民族によって違うものなのかということが議論されてきています。また、民主主義とか市民的、政治的な自由とか権利、これらは一体先に来るのか、それとも経済的、社会的な発展や平等など、これらの方がむしろ先に来るべきなのか。つまり衣食足りて礼節を知るということになるのか、そうでないのかということも色々議論されてきています。人権や民主主義の確立と、経済成長と生活水準の向上とは、恐らくできるだけ並行的に、同時的に進められるべきものではないかという感じがします。どちらが先に来るか、卵が先か、ひよこが先かということになりますが、私は事情が許す限り、この両方は並行的に進められるべきだと思います。アメリカのクリントン大統領が、この間、中国を訪問し



ました。同じような議論がそれに関連してあったのは、皆様ご存じのとおりです。

5年前に世界の人権問題に関する大きな会議が国連主催でウィーンで開かれました。それには勿論アジア諸国も活発に参加していたわけですが、その時の結論としては、人権や民主主義の基本的な原則は普遍的、世界的なものである。しかしながら、それを実施する点においては、やはり各地域、各国、各文化の特色を考慮しながら、これを行わなくてはいけないということであったと思います。

アジア太平洋地域の多くの都市は、急激に成長発展し近代化を遂げました。そのことで、これらの都市の中核をなしてきた過去における文化とか伝統とか地域社会の誇りとか結束といった価値は時としてなおざりにされ、その間の相剋、対立、矛盾というものに我々はまだ苦しんでいるのではないかとともに思います。

私は長い間、日本の外で生活をしてきましたが、日本の第二次大戦後の急速な近代化と経済成長は素晴らしいと喜ぶと同時に、多くの国内の都市がある意味で個性が余りない、特色のない、のっぺりとしたガラスとコンクリートの建物に満たされているというのを、日本人の一人として悲しく思うわけです。この点では、どちらかといいますと、ヨーロッパ辺りの都市が国の手厚い保護を得た上で、進歩と伝統、近代化と過去の保存という両面を生かしながら、ほどよい調和とバランスに成功しているというのを見て、羨ましいと思うことがあります。これからの都市というものは、確かに、便利で効率的で清潔で生き生きとした生活を、みんなが、特に若い人達が楽しめるような、そういう住む魅力が必要だと思います。同時に、我々みんながやはり年をとっていくわけですから、増大していく高年齢層にとっても、安心して親しみの持てる、過去の美しさや伝統をきちんと保存している都市が、これからは求められるのではないかとともに思います。こういったものの均衡、バランスというものは難しいと思いますが、不可能ではないと考えます。国をとって見ましても、それぞれの個人をとって見ましても、我々は過去と未来の間に生きているわけです。過去を忘れてしまう国民も困ったものですし、私が担当しました世界の紛争では、過去や歴史を忘れなさすぎる国民に手を焼いたこともあります。日本人の場合には、むしろ逆にどうも過去を水に流すことが美德であるかのような考え方があり、自分の過去をきちんと見直してみるということを日本人は必ずしもやってこなかったのではないかとともに感じも私は持っております。過去には美しいものが沢山ありますが、忌まわしいことも勿論あります。それを虚心坦懐に客観的に見直すということも非常に大事だと思います。その意味で、これからの都市の発展は、節度と常識、それから短期的な発展ではなく、長期的な発展を目指すことが必要ではないかと考えるわけです。

国際化ということがよく言われます。日本では少し言われ過ぎる感もあります。新しくできる大学は「国際何とか大学」というのが多く、また大学がつくる新しい学部も「国際何とか学部」というのが多いようです。私は、国際化というものは、つまりは自分の問題を掘り下げていくことによって、他国や、他国の都市から学ぶことが必ずある、また、それらの国や都市から助けてもらうことも色々出てくるのだということではないかと思えます。また、国際化というのは決して自分のアイデンティティを失うということではないはずで、この都市サミットを契機に、皆さんが貪欲な知識欲を持って、他の都市から学び、自らの選択肢を増やしていられるよう希望しますし、個性的なまちづくりというものに大いに期待したいと思えます。

私は外から日本を見つめながら、自分の国の島国的な内向き志向を時として批判してきました。しかし、今やどんな国であっても、他の国の存在を考えずに生きることはできません。他の国の利益も

きちんと考え、グローバルな協力の枠内において我々は存在しなくてはならないものだと思うわけです。唯我独尊（Go it alone）ということは許されないことだろうと思います。我々は、人類として人間的な価値においては全く同一であり、平等であるのだと思います。しかしながら、我々一人一人、また各国の国民、民族というのは、お互いの習慣とか発想、民族性の違いを持っており、このような違いをはっきりと認識し、違いを喜び合うという寛大な心、つまりこれは言わば文化的相対主義とも言うべきものだと思いますが、こういうものに立った国際協力、また都市の建設を目指すべきではないかと考えます。

日本の中で、福岡市は最も活力があり開かれた都市であるというふうに言われていますが、こういう地の利を生かして進まれる福岡市からは、日本の他の都市であっても、またアジア太平洋地域の他の都会であっても、学ぶところが多いのではないかと思います。そういう大変いい機会をここで皆さんが持たれるわけですから、この数日間におけるアジア太平洋都市サミットのご成功と、また未来に向けた飛躍を祈り、私はこのような都市間の友好と理解から、国と国との友好と理解、またアジア太平洋地域全部の理解、ひいては世界全体の平和に貢献するものだと深く確信しております。ご清聴ありがとうございました。

**【司会】** ありがとうございます。明石康様に今一度大きな拍手をお送り下さい。

### — 第 3 部 —

#### 能

**【司会】** それでは、観世流 坂口信男氏、貴信氏によります能「石橋（しゃっきょう）」を始めたいと思います。どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。

#### ● 石橋(しゃっきょう) ●

**【司会】** 観世流 坂口信男氏、貴信氏によります能「石橋（しゃっきょう）」でした。大きな拍手をお送り下さい。

これをもちまして、第3回アジア太平洋都市サミット開会式を終了いたします。ありがとうございます。